

Marshall

AMPLIFICATION



2061X - 20 Watt Head
Owners Manual



ジム・マーシャルのメッセージ

ハンドワイヤリングのリイシュー版 2061 20Wオールバルブ・リード&ベース 20 ヘッドをお買い上げいただきありがとうございます。すばらしいサウンドを誇るこのアンプのオリジナル版は、1967年から1973年にかけて製造されて人気を集め、現在ではコレクターズ・アイテムになっています。オリジナルに忠実にリイシューされた今回の2061は、マーシャルの歴史的な人気モデルをハンドワイヤリングでリイシューする進行中のシリーズの一環です。私がこのシリーズを始めた理由はごく単純——それが大勢の人々に望まれたからです。

私は、展示会やミュージックフェア、毎年訪れる世界中の楽器店で、マーシャルのユーザーと会い、話をするのが大好きですが、そのようなときに必ずといっていいほど話題になるのが、ハンドワイヤリングです。ここ数年は特に、数えきれないほどの人にハンドワイヤリングのリイシュー・モデルをつくってほしい、と言われました。復刻してほしいというリクエストが最も多かったマーシャルのビンテージ・アンプのひとつが、お買い上げいただいた2061Xヘッドであり、そのため、これをハンドワイヤリング・リイシュー・シリーズの第一陣に加えることにしました。

2061Xは、大多数のビンテージ・マーシャル・ギター・アンプ同様、コントロールや仕様、回路がシンプルでありながら、サウンドとフィールがすばらしいものです。2061モデルのオリジナル版のトーンとフィール、そしてパツと目を引くルックスのよさを再現するため、設計チームは多大な努力を費やしてオリジナル版の部品や素材をすべて探し出し、あるいは再現し、1960年代の終わりから1970年代初めにかけてオリジナル版に用いられた製造法を復活させました。ハンドワイヤリングのタグボードから、オーダーメイドのダグノール社製の出力トランスと電源トランスまで、非常に正確で驚くほど忠実にオリジナルを再現したこのリイシュー・モデルを私はとても誇りに思っています。

マーシャルの歴史から復活したこのハンドワイヤリングのアンプを楽しんでいただけることを心から願っています。



はじめに

このアンプのトーンと技術について

2061X は、カソード・バイアス、オールバルブ、20W、2チャンネルのヘッドで、出力ステージのネガティブ・フィードバックがありません。ハンドワイヤリングのリイシュー版をつくるに当たっての私たちの目標は、これをできる限りオリジナル版に近づけるということでした。



ジム・マーシャルが前述したとおり、私たちは部品、回路、製造法、素材、仕様、外観、信号回路、パフォーマンス、トーンとフィールを、できる限りオリジナルに忠実に再現するために、あらゆる努力をしました。また、喜ばしいことに、ダグノール・トランスフォーマーを筆頭に、マーシャルの部品供給業者も熱意をもってこの仕事に取り組んでくれました。

トップパネルのレイアウトをご覧になればわかるとおり、この 2061X はとてもシンプルでわかりやすいアンプで、2つのチャンネルにそれぞれ（ボリューム）と（トーン）の2つのコントロールがあるだけです。マーシャルの他のすべてのオールバルブ・アンプ同様、2061X は、全開にすると最高のサウンドが生まれます。また、ワット数が比較的小さいため、耳にやさしいボリュームでそれを実現することができ、レコーディングのツールとしても最適です。

そして1962“ブルースプレーカー”コンボや伝説的な100W“ブレキシ”ヘッドのようなマーシャルのより大型のノン・マスターボリューム・オールバルブ・アンプと同様に、2061Xの美しいディストーションと豊かなハーモニー、厚みのある音楽的トーンは、オーバードライブされたパワー管から生まれます。さらに、音量を上げたときの2061Xは、驚くほど表現力が豊かで、ギターのパワーを下げたときはクリーンに、またはディストーションに入らざるに調節できます。ピッキングのダイナミクスに対するレスポンスもよく、力強くピッキングしたときにはアグレッシブなサウンドになり、ピッキングのアタックを控えめにするともクリーンになります。

EZ81 整流管を搭載した18Wのモデルとは異なり、2061Xにはソリッドステートのシリコン・ダイオード整流装置が搭載されています。そのおかげで2061Xは、よりアグレッシブで驚くほどモダンなサウンドのアンプでありながら、あの特徴的で非常に望ましいビンテージのオールバルブ・トーンを備えています。

真空管構成：ECC83（12AX7）プリ管2本と、プッシュプル式に働くEL84パワー管2本を搭載。すべて最高品質の真空管で、細部まで入念にテスト、格付けされたものです。

2本のECC83プリ管（V1、V2）は、以下のように使用されています：

V1は、リード&ベース・チャンネルのプリアンプ・ゲイン・ステージとして機能します。どちらのチャンネルのプリアンプもゲイン・ステージが1つです。ECC83は双三極管で、V1の場合、片側ずつ2つのチャンネルに割り当てられています。V2は、アンプのフェーズ・スプリッターとして機能します。EL84パワー管2本は、使用時に非常に高温になるため、ベースには最高級のセラミックを使用しています。

トーン回路：典型的なマーシャル・アンプと同様に、どちらのチャンネルのトーン・ネットワークもゲインの後ろにあるパッシブ回路です。リード・チャンネルのトーン回路は、高周波プリエンファシスとパッシブ高周波カットを組み合わせたもので、2つをミックスする割合は、使用しているチャンネルのトーン・コントロールの設定によって変わります。ベース・チャンネルのサウンドはリード・チャンネルよりずっとダークで、低音域がタイトです。

コンポーネント：真空管を除くすべてのコンポーネントは、欧米のメーカーによって製造されたものです。

タグボード：表面の寸法、厚さ、アヴラグの留め具を装着した特注の部品孔まで、すべての点においてオリジナル版とまったく同じですが、素材にはEM42を用いています。オリジナル版とまったく同じ化学組成の基板を使用しなかったのは、これが現行の引火性に関する安全基準を満たしていなかったからです。



トランス：2061 が設計、製造されたころには、ジム・マーシャルは、今や有名となったトランス・メーカーのダグノールおよびドレイクとの提携関係をすでに結んでいました。そのため、2061 のオリジナル版に使用された出力トランスと電源トランスは、いずれもダグノール社が供給したものでした。

出力トランスと電源トランスは、アンプの性能やサウンドやフィールに影響を及ぼす重要な部品です。したがって、私たちはオリジナル版のトランスをあらゆる面で再現するために、ダグノールの研究開発部門と緊密に協力し、両方のトランスに用いられた製造法や素材（ラミネーションの等級、絶縁材、コイルの間隔など）を注意深く研究、分析して、すべてをできる限り正確に再現しました。また、何よりも重要な電気的特徴と性能を複製することを目指し、ダグノール社の持つ高度な専門技術と熱意のおかげで、それを実現しました。

出力トランス：オリジナル版の 2061 は、インピーダンス・セレクターがなく、2つのスピーカー出力ジャックをトランスの8Ωタップに直接配線し、8Ωキャビネット1基または16Ωキャビネット2基を使用できるようにしていました。リイシュー版は、キャビネットの互換性の面でより使いやすくなるため、リアパネルに4Ω、8Ω、16Ωの3つの選択肢のあるインピーダンス・セレクター（*注）を加えました。これにより、エクステンション・キャビネットのオプションが広がりました。

*注：インピーダンス・セレクターが加わったことによって、リイシュー版 2061X の応用範囲が広がりましたが、オリジナルに忠実なトーンに影響が及ぶことはありません。

電源トランス：今日の厳しい安全基準を満たすために採用したオーダーメイドのダグノール社製トランスは、オリジナル版より寸法が大きくなっていますが、出力トランス同様、性能をオリジナル版と同じにするために最大限の努力をしました。特に、“レギュレーション（安定化）”と呼ばれる効果を再現することに注意を払いました——これはトランスから真空管回路に供給される電圧が、負荷に応じて変化するものです。

シャーシ：オリジナル版と同じく、突合わせ溶接のジョイントがついた16ゲージ軟鋼のボックスセクション・シャーシを使用しました。この鋼は、亜鉛の被膜で覆って腐食を防ぐ電気めっき処理を施したものです。

フロントパネル：参考に用いたオリジナル版と同じ、陽極酸化処理を施し、表面にブラシをかけて仕上げたゴールドのアルミを使用しました。2016X のフロントパネルの詳細については、このマニュアルの28ページを参照してください。

注：初期の 2061 のなかにはフロントパネルがプレキシグラスのものもありましたが、マーシャルは 1969 年にフロントパネルにプレキシグラスを使うことをやめたため、このモデルの場合、表面にブラシをかけて仕上げたゴールドのアルミのパネルのほうが一般的です。

リアパネル：こちらにも参考に用いたオリジナル版と同じ、陽極酸化処理を施し、表面にブラシをかけて仕上げたゴールドのアルミです。2016X のリアパネルの詳細については、このマニュアルの 29 ページを参照してください。

キャビネットの構造：強度を最大限に高めるためにフィンガージョイントで接合された、節のない良質なバルテック・パーティ材の合板を使用。メインのキャビネット・フレーム（両側面と上面、底面）とフロント・バッフル（振動板の前後から出る音波が干渉し合うのを防ぐ隔壁）は、厚さ 12 ミリの合板、キャビネットの背面は 9 ミリの合板です。エッジはすべて半径 22 ミリになっています。

キャビネットの外観：黒のレバント、ビーズ細工、パイピング、そして小さな 6 インチのゴールド・ロゴは、オリジナル版とまったく同じです。

リアパネルの改良点

下記の特色は、このヘッドをより使いやすくして実用性を高め、応用範囲を広げ、点検・修理を容易にするために、オリジナル版とは異なる仕様にしたものです。いずれもヘッドのサウンドに影響を及ぼすものではありません。

インピーダンス・スイッチ：オリジナル版にはなかった機能ですが、2 つのスピーカー出力ジャックと連動させて使用し、エクステンション・スピーカー・キャビネットのオプションを広げることができます。

HT および電源ヒューズ：オリジナル版は、この 2 つのヒューズがシャーシのなかにあり、ヒューズがとんだ場合に、交換が非常に面倒で時間がかかりました。両方のヒューズにリアパネルから簡単にアクセスできるようにし、この問題を解消しました。

電源コード：オリジナル版はヘッドに直接配線されていましたが、点検・修理を容易にし、実用性を高めるために、リイシュー版の電源コードは取り外しができるようにしました。



技術仕様書

出力 20W RMS

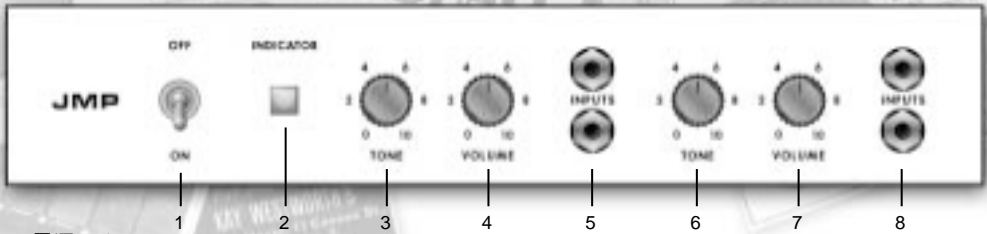
重量 9.6kg

寸法 508mm x 227mm x 210mm

欧州のみ—注：このアンプは欧州連合の電磁場適合性（EMC）規制法 [環境 E1、E2、E3 EN 55103-1/2] および低電圧機器規制法に準拠しています。

欧州のみ—注：2061X の最高入力電流は 11 アンペアです。

2061X フロントパネル



- 1 電源スイッチ
アンプの電源をオン/オフします。

注：アンプを移動するときは、アンプの電源を切り、電源コードを抜いた状態にあることを必ず確かめてください。

- 2 インジケータ
この 6.3V の白熱光フィラメント電球のインジケータは、アンプのスイッチが入っているときに点灯します。アンプのスイッチが切れているとき、電力が供給されていないときは、点灯しません。

リード・チャンネル

- 3 トーン・コントロール
リード・チャンネルのトーンを調節します。時計回りに回すとサウンドの高域成分（トレブル）が多くなります。
- 4 ボリューム・コントロール
リード・チャンネルのボリュームを調節します。時計回りに回すと、リード・チャンネルのボリューム・レベルが上がります。
- 5 リード・チャンネル入力
リード・チャンネルのためのギター入力です。上は“高感度”入力、下は“低感度”入力で、後者は前者より音量が6dB低く、よりダークなサウンドになります。必ず高品質のギター用シールド・ケーブルを用いてください。

ベース・チャンネル

- 6 トーン・コントロール
ベース・チャンネルのトーンを調節します。時計回りに回すとサウンドの高域成分（トレブル）が多くなります。
- 7 ボリューム・コントロール
ベース・チャンネルのボリュームを調節します。時計回りに回すと、ベース・チャンネルのボリューム・レベルが上がります。
- 8 ベース・チャンネル入力
ベース・チャンネルのためのギター入力です。上は“高感度”入力、下は“低感度”入力で、後者は前者より音量が6dB低く、よりダークなサウンドになります。必ず高品質のギター用シールド・ケーブルを用いてください。

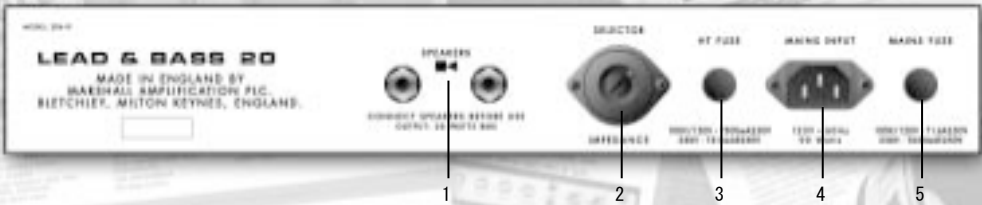
動作に関する注意：2つのチャンネルの“連結”について

2061X の2つのチャンネルは、いずれもゲイン・ステージが1つで、同調しているため、2つを連結（ブリッジング、ジャンピング、スレーヴィング、リンキング、デジューチェイニングともいう）して、両方同時に使うことも可能です。リード・チャンネルとベース・チャンネルをミックスすることによって、アンプのトーンの可能性を広げることができます。

これを実行する最も一般的な方法は、ギターを2つのチャンネルいずれかの上の（高感度）入力に接続し、短いギター用シールド・ケーブルで、そのチャンネルの下の（低感度）入力と、もう一方のチャンネルのいずれかの入力を結ぶというものです。

また、ギターをいずれかのチャンネルの下の（低感度）入力に接続し、シールド・ケーブルで、そのチャンネルの上の（高感度）入力と、もう一方のチャンネルの2つある入力のいずれかを結ぶことも可能です。あまり一般的でない方法ですが、トーンに面白い変化が加わります。

2061X リアパネル



1 ラウドスピーカー出力

外部のエクステンション・キャビネットに接続するための2つの平行・ラウドスピーカー出力ジャックがあります。必ずアンプの出力インピーダンスを正しく設定してください（2項）。

警告！ このヘッドは、スピーカーを接続せずに使用しないでください。

2 出力インピーダンス・セレクター

アンプの出力をスピーカーのインピーダンスに合わせます。

マーシャルのオールバルブ・アンプを使用する際には、以下の点に注意してください。a) 動作中はスピーカーを必ず接続すること。b) アンプで選択したインピーダンスが、エクステンション・スピーカー・キャビネットの合計インピーダンスに合っていること。

警告！ インピーダンス4Ω未満のエクステンション・スピーカー・キャビネット、または、インピーダンス4Ω以下のエクステンション・スピーカー・キャビネット2基をこのヘッドに使用することはできません。

出力インピーダンス・セレクターの設定を変える際には、必ず先にアンプの電源を完全に切ってください。この項の注意書きにしたがわないことは、アンプの破損の原因になります。

3 HTヒューズ

HTヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。ヒューズを取り外したり、定格外のヒューズを使用したりしないでください。

4 電源入力

付属の取り外しができる電源コードを接続します。ご使用のアンプの入力電圧の定格は、リアパネルに表示されています。初めて電源に接続する際には、アンプと電源の電圧が整合していることを確認してください。疑問がある場合は、専門の技術者かマーシャル代理店にご相談ください。

5 HTヒューズ

HTヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。ヒューズを取り外したり、定格外のヒューズを使用したりしないでください。

すべての注意書きに従い、警告を守ってください
この取扱説明書は大切に保存してください